

理念の共有で強い組織に変わる

ラグビーワールドカップ南アフリカ大会はもちろん、リオオリンピックのバツハ会長の言葉も、世界中に通用する理念や思い、理想への共感で人は仲間になれるのだという証です。

目標や利益だけのために仲間になるというのも人間の側面ですが、それを越えた人としての仲間感とは、目に見えないもので繋がるのでしょうか。

チームや組織で大切なことはこれらを共有し、すべての人のDNAにしていくことです。それは強制ではないが、自分のものとして内面化し、組織にいる以上は自身の生き方と関連付けて落とし込んでいく必要があります。

重要となるのは、理念があるだけでは何にもならないということです。"ただあるだけの理念"になっているチームや会社や組織は多々あります。言語化すら明確にされていないところも少なくないでしょう。共有し風土としていくには、言語化して、それを繰り返し浸透させていくエネルギーと仕組みと人財の存在が必要です。人が変わってもその目に見えない大切なものが、その組織やチームの中に生きていないといけないからです。仕組みはそれぞれの会社やチームによって違いますが、継続的に働きかけをしていくこと以外に答えはないように思います。それによってみんながおおぐに値する理想の光となるからです。

私の仕事は、理念の明文化と浸透・文化作りのサポートで、それをさまざまなチームや企業に行くことで日々奔走しています。たくさんさんの組織がこのことの重要性に気付いているからです。この目に見えない理念が価値化され共有されることで、チームや組織のパフォーマンスやモチベーションなどが向上するのです。継続しか答えはないのです。ただそこにあるだけの理念はすぐに風化します。

たとえば、練習を気合いと根性でこなし、勝敗という目標や結果だけを重要視してきた高校野球のチームやさまざまな運動部の部活、あるいは大学体育会のチアリーディング部やゴルフ部、ラクロス部、アイスホッケー部などが、理念などをチーム作りの上で大事にしていくことで、確実にチームワークはよくなり強くなります。明確な理念を持ったチームが全国大会に出場できたり優勝したり、また、インターハイに出場できたりといった事例は少なくありません。

私が定期的に通って、監督やコーチと語り合って浸透していったチームもあれば、現場のキャプテンを中心に、学生たちで自らチームの理念を共有するミーティングを繰り返し強くなったチームもあります。結果はもちろん多因子なので、共有感が増して強いチームになったとしても必ずしも勝つとは限りませんが、そのようなチームには必ず仲間感を含む財産が残るのです。

拙著『スラムダンク勝利学』（集英社インターナショナル）をバイブルに、チームで大切にするものを言語化し、プレイヤーはもちろんチームスタッフや保護者会まで巻き込んで、チームの一体感が増して、全国大会で優勝したチームもあります。たとえば、「あきらめたらそこで試合終了」とか「オレは今なんだよ!」、「全力投球」など、当たり前だけれど忘れがちな思いをみなで大事にして、共有し続けることでチーム力はアップしていきます。高校生やジュニアのチームなど、若ければ若いほど、素直なのでチームが繋がり、一体感

が生まれるようになる気がします。

スポーツはどのようなチームも結局は人の集まりですから、仲間感を醸成していけば必ず結果という達成感とともに、チーム作りの充実感もみなで味わうことになるのです。

スポーツの魅力は、ロボットが勝利のためのプログラムをインストールしてただそれを遂行して勝ち負けの結果が出るといふ仕組みの上にはなく、人間としての繋がりと仲間感を得ることで成り立っているのです。そこには目に見えない信頼という財産が存在するからにちがいありません。